

# 稲作管理特報

令和4年4月15日  
 入善産米品質向上対策本部  
 黒東地域農業技術者協議会

育苗期間中は、天候の変化が激しい時期です。近年の育苗期間の気温は高い傾向があるので、ハウス内が高温にならないよう十分換気するとともに、的確な水管理を行い、活力の高い苗に仕上げましょう。

## 1 育苗管理 ～温度管理に注意し、換気を徹底する～

- (浸種)**
  - 浸種袋の色分けやラベル付けにより、品種の区分管理を徹底しましょう。
  - 十分に浸種期間を確保しましょう（浸種期間の目安：7～10日程度）。
  - 浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう（発芽揃いを良くするため、特に浸種初日は12℃以上を確保しましょう）。
  - 浸種始めは2～3日程度、水の交換をしないでください。
- (催芽、播種)**
  - 催芽及び出芽時に「育苗器」を使用する場合、温度は30℃を厳守してください。
  - 播種量は、1箱当たり乾籾で120g（催芽籾150g）程度としましょう。
- (搬出)**
  - ハウスの搬出直後は、土が落ち着くまで水をしっかりかけましょう。
- (ハウスの温度管理)**
  - 育苗ハウス内の温度は25℃を超えないよう、搬出直後から換気を行いましょう。ただし、夜温が10℃以下になると予想される場合はハウスを早めに閉めましょう。
- (育苗期間)**
  - 適正な育苗日数の活力の高い苗に仕上げましょう。
  - 5月15日植えの育苗日数（播種日～田植日）は19日です。
  - 密苗では老化苗にならないよう計画的な作業を心がけましょう（育苗日数16日で十分なマット強度が得られます）。

	浸種日	催芽日	播種日	搬出日	田植日	育苗日数
通常	4/17	4/24	4/26	4/29	5/15	19日
密苗	4/21	4/27	4/29	5/2	5/15	16日

## 2 苗箱施薬剤の散布 ～除草剤と間違えないよう、散布前に必ず確認する～

- 一般栽培の品種（「コシヒカリ」、「てんたかく」、「てんこもり」、「新大正糯」など）には次の薬剤を使用しましょう。
- 「富富富」にはできるだけ下記の薬剤を使用せず、別で発行する「富富富」特報を参考にしてください。

	苗箱施薬剤	使用方法
通常	ルーチンブライト箱粒剤	・は種時覆土前～田植当日 1箱当たり50g
密苗 (推奨)	ブーンレパード箱粒剤	・田植時 側条施用 10a 当たり 1kg ・は種時(覆土前)～田植当日 1箱当たり 50～100g ※10a 当たりの使用箱数に応じて施用量を調整し 10a 当たりの施用量が 1kg となるようにしましょう。

みな穂の米づくりのスタートは、「健苗育成」から！

- 均一に散布し、苗に付いた薬剤を払い落とし軽く水をかけましょう。
- 育苗後に育苗ハウスで野菜を栽培する場合、は種時（覆土前）の処理やハウス内での散布は行わないでください。

## 3 耕起・代かき ～根張りを良好にするとともに、除草剤の効果を高める～

- (耕起)**
    - 作土を深くすることで、根張りが良くなります。
    - 耕起作業は、ほ場が乾いた状態でゆっくり起こし、作土深を15cm以上確保しましょう。
    - 作業速度を落とすとともに、ロータリの回転も低速（PTO1速）にして、ていねいに作業を行いましょう。
  - (代かき)**
    - 代かきは浅水にして稲わらをしっかりすき込むとともに、ほ場の均平に努めましょう。また、浅水で行うことで、一発肥料の被覆殻の流出防止にもつながります。
    - 代かきは田植えの2～4日前に行ってください。
    - 代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられたワラなどの浮遊物は除去しましょう。
- トラクタ作業後、道路に落とした泥の塊は早急に片付けましょう。

## 4 農作業安全 ～トラクタのほ場や道路からの転倒・転落死亡事故防止！～

- 安全フレーム付きのトラクタを使用し、シートベルトを必ず着用しましょう。
- 作業終了後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認しましょう。
- カーブでの減速、一旦停止を行いましょう。
- 移動道路やほ場の危険箇所を確認しましょう。



春の土づくり運動（令和4年3月～5月）

春の農作業安全運動（令和4年4月～5月）

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。  
 下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報  
提供内容

- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

